

乳幼児期にかかりやすい感染症一覧表

	病名	潜伏期間	感染経路	主症状			登園停止期間 (目安)	好発年齢	免疫	予防	全身状態の回復後 予防接種ができる 間隔	備考
				発熱	発疹	その他の症状						
1	麻疹 (はしか)	10～12日	飛沫・接触 ・空気	38度以上の高熱	鮮紅色の小紅斑から融合し、次第に色素沈着	上気道炎症状(くしゃみ・咳・鼻水) 結膜炎症状・コプリック斑	解熱後3日を経過してから 発疹は色素沈着まで	乳幼児 特に1才	終生	生ワクチン (流行中に γグロブリン)	4週間	高熱と熱性けいれんに注意 安静・保温で大事に療養を
2	風疹 (三日ばしか)	14～21日	飛沫・接触	発疹と共に 軽度の発熱	麻疹様様の薄い発赤疹	リンパ節腫脹	発疹消退まで	幼児 低学童	終生	生ワクチン	4週間	未罹患で妊娠初期の場合は注意 (胎児に影響する)
3	水痘 (みずぼうそう)	10～20日	飛沫・接触	発疹とほぼ同時に 38度前後の発熱	発赤丘疹、水疱、膿疱、 痂皮が混在するのが特徴	発疹が数日間次々に現れる	発疹出現1～2日前から すべての発疹が痂皮 となるまで	乳幼児 低学童 4～5才	終生	生ワクチン	4週間	爪を短くして、かかせない 肌を清潔に(シャワーは可)
4	流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	14～21日	飛沫・接触	38度前後の高熱		耳下腺・顎下腺などが腫脹し圧痛がある	耳下腺の腫脹が消失する まで	幼児	終生	生ワクチン	4週間	顎下痛があるので、食事は のどごしがよく柔らかいものを
5	伝染性紅斑 (りんご病)	10～20日	飛沫	発熱は軽い	頬が赤くなる、手足に網目 状の紅斑が出る	1～3日間38度台の発熱 数日後に紅斑出現	全身状態が良くなるまで (発疹時は既に感染力は 消失している)	年長児 低学童 6～7才	終生		2週間	子どもには心配ない病気 未罹患の妊婦はまれに流産
6	溶連菌感染症 (しょうこう熱)	2～5日	飛沫・接触	39度前後の高熱	発疹後、全身に鮮紅色の 細かい小丘疹が広がる	扁桃発赤・腫脹・咽頭痛・ イチゴ舌・回復期に皮膚の落層	抗菌薬内服後24～4 8時間を経過するまで	4～7才 低学童	再感染あり		回復後	家庭での隔離のもとに きちんと治療し静養する
7	百日咳	7～10日	飛沫・接触	平熱		けいれん性咳喘発作で嘔吐すること もあり(特に夜中)・笛声	特有の咳が消失するま で	0～1才	終生	不活化ワクチン	回復後	長期の治療・静養になる
8	突発性発疹	約10日	飛沫・経口 ・接触	39度前後の熱が 3日くらい続く	解熱と同時に、 体幹に風疹様紅斑	下痢を伴うこともある	解熱後1日以上経過 し、全身状態が良くなる まで	0才	再感染あり		2週間	発疹が出れば一安心 発疹が褐色化するまで静養
9	RSウイルス感染症	2～8日	飛沫・接触	38～39度の高熱		上気道炎症状(咳・鼻水) 喘鳴、呼吸困難	呼吸症状が消失し、全 身状態が良くなるまで	乳幼児	再感染あり		2週間	良く手を洗う
10	夏 かぜ 三 疾患	手足口病	飛沫・接触 ・経口	出ることある	手・足・口・股間などに水疱疹	軽いかぜのような症状 口内炎がひどくて食事がとれないこ とがある	解熱後1日以上経過 し、普段の食事ができ ようになるまで	乳幼児 1～2才	再感染あり		2週間	口内痛があれば、食事は低刺激で 高カロリーのものを
11		ヘルパンギーナ (夏かぜ)	飛沫・接触 ・経口	38～39度の高熱		咽頭痛 咽頭奥に白い小さな水疱疹	解熱後1日以上経過 し、普段の食事ができ ようになるまで	乳幼児 特に1～4才	再感染あり		2週間	口内痛があれば、食事は低刺激で 高カロリーのものを
12		咽頭結膜熱 (プール熱)	飛沫・接触 (プールでの 感染が多い)	39度前後の高 熱・咽頭炎		咽頭痛・結膜充血・目やに・顎下 顎部リンパ節腫脹	主症状消失後、2日を 経過するまで	乳幼児 低学童			2週間	眼科治療はきちんと行う
13	インフルエンザ様疾患	1～5日	飛沫・接触	38～39度の高熱		咽頭痛・頭痛・咳 乳児は嘔吐・下痢なども	発症後5日間を経過か つ解熱後2日を経過す るまで		再感染あり	不活化ワクチン	2週間	暖かくして安静 温かい飲み物と消化の良い食事
14	マイコプラズマ肺炎 (典型肺炎)	14～21日	飛沫	高熱		乾性の激しい咳が続く咽頭炎 全身症状は比較的良好	解熱し、激しい咳が治 まるまで	幼児 低学童	再感染あり		2週間	家庭での隔離のもとに きちんと治療し静養する
15	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	1～3日	経口			下痢・腹痛・嘔吐	嘔吐や下痢が治まり、 普段の食事ができるよ うになるまで	0～1才		生ワクチン	2週間	水分補給(嘔吐の様子をみながら 少量ずつ)脱水症に注意
16	ウイルス性胃腸炎 (ノロウイルス)	1～2日	経口・接触 ・食品媒介			下痢・腹痛・嘔吐・嘔気	嘔吐や下痢が治まり、 普段の食事ができるよ うになるまで	3～7才	再感染あり		2週間	温かく消化のよいものを小しずつ 暖かくして安静にする
17	髄膜炎	————	ウイルス・ 細菌等	高熱		頭痛・嘔吐	完全治癒まで	年長児に多い		不活化ワクチン	2週間	完治まで静養治療
18	伝染性膿痂疹 (とびひ)	2～10日	接触		①水疱性のもの ②結痂性のもの	①水疱の皮膜が破れてびらんとなる ②小水疱・膿疱から厚い痂皮となる	痂皮状になり、 すっかり乾燥するまで	乳幼児	再感染あり		回復後	適切な治療と処置を徹底する 爪を短くして、かかせない 肌を清潔に
19	伝染性軟属腫 (水いぼ)	2～7週間	接触		半球状の小豆前後の大きさ で多発することが多い	体幹・顎・股間などに好発する	掻き傷から滲出液が出 ている部位は被覆する こと	幼児			回復後	数が少ないうちに取るのがよい 適切な治療と処置をする